

令和元年度「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」結果から見た本校の課題等

<p>教育方針・学校経営</p>	<p>多くの項目で生徒・保護者ともに過去3年間の推移の中で肯定的評価の割合が増加した。とりわけ両者ともに「登校する意義や意欲」に関する項目で高い割合を維持していることは、本校の教育活動が広く受け入れられていることを伺わせる結果となっている。</p> <p>一方、「個に対応した教育」については否定的評価が依然として高く、他の領域の関連項目も同様の結果となっている。今後は新教育目標等の実現に向け「カリキュラム・マネジメント」を徹底して成果の蓄積及び課題の改善に努めたい。</p>
<p>家庭との連携</p>	<p>この領域でも多くの項目で生徒・保護者ともに肯定的評価の割合が高い状態を維持している。防災や行事予定、生徒の活躍・活動など「すぐメール」やHPによる情報発信が奏功したと考えられる。</p> <p>ただし、保護者の回答全体に「よくわからない」とする回答が多いことを考えると、今まで以上に広報の方法や質・量等に工夫を凝らさなければならないことも確かである。特に新教育目標等の実施に向けて力を注ぎたい。</p>
<p>教職員</p>	<p>3年間の推移の中で漸く改善してきたとの感が強い。「学習指導の知識・力量・意欲」を問う項目で改善が認められる。教員の授業改善やホームルーム経営の努力が評価され始めたと思える。</p> <p>ただし、教育方針・学校経営の領域でも触れたとおり、「個に対応した教育」には依然課題があり一斉授業の中でいかに個に対応するかが次の課題と言える。</p>
<p>学習指導</p>	<p>単位制に移行し、1. 2年次では全ての授業が少人数で行われているのだが、生徒用No14「習熟度別・少人数授業」の数値が下がっている。その一方、保護者用No17の項目は向上しており、当事者には自覚されていないものの、保護者の理解は進んだと思われる。1クラスあたりの生徒数は3学年より少ないため、一人一人に目が届きやすく、生徒の学習状況が把握しやすい。</p> <p>No15「総合学習」については一昨年度大きくマイナスになり、昨年度もその傾向が続いたが、今年度は否定の数値が大きく減少した。しかし肯定の数値がその分上昇したわけではなく、「不明」の数が増えており、学習活動自体には肯定的だが、自分にとって有意義かどうかはこれから判断という状況であることがうかがえる。No.32「家庭学習」については、定期考査前の調査では3時間以上の時間が取れているが、No.36「学習と部活動の両立」については1/3以上の生徒ができていないと回答しており、平常時の家庭学習について生徒の意識付けが望まれる。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>生徒・保護者評価ともに多くの項目において肯定的評価が70%前後かつ3年間ほぼ同数値で推移している。落ち着いた学校、生徒の姿が数値に現れている。</p> <p>今日的課題として、いじめや不登校問題への対応があげられる。特にいじめ問題では、成長発達段階における人間関係トラブルといじめとの区別が難しく、生徒・保護者の申出のほとんどが「いじめ」と括られている現状やその対応に苦慮している。また、ひとつのことに挫折を感じると全てを受け入れられず、不登校に陥りやすい生徒も増加傾向にある。教育相談ではこういった問題を抱える生徒に対し早期対応に努め、保護者やSC、外部機関などと連携し組織的かつ機能的な対応を継続しているが、その負担も重い。</p> <p>生徒指導では生徒の主体的な活動を目標の一つとして取り組んできた。生徒会の</p>

	<p>あいさつ活動により否定的評価の減少が続き、また、MSリーダーズ活動の自主参加や振り込め詐欺防止啓発、多治見駅清掃など活動活性化が図られた。</p> <p>今後も報告・連絡・相談(ほうれんそう)による情報共有と生徒指導、教育相談、特別支援を意識した組織的対応を基本に推進していく。</p>
<p>進路指導</p>	<p>「サタスタ・補習」に関する項目での評価は生徒・保護者とも低調であったが、改善傾向も見られ、否定的評価が減少し、その分肯定的評価が増加している。課題となるのは、学年が進行につれ肯定的評価が低くなっている点である。進路を意識した学習の必要性がある中で、希望制による補習の実施で参加者が少ないことなど、生徒の意識改革も必要になってくる。また、参加したことによるメリットを感じられる実施方法や内容となるよう見直しを図ることも必要である。</p> <p>「情報提供」については、生徒で肯定的評価が64%であるのに対して、保護者で85%であり、進路説明会(講演会)やホームページによる情報発信の機会を増やしてきた成果であり、今後も更なる内容の充実を図っていきたい。</p> <p>「進路支援」については、生徒・保護者とも66～67%が肯定的評価で概ね良好ではあるが、さらに満足度を高め生徒の進路実現の支援を図っていきたい。</p> <p>「総合的な学習の時間(ゼミ学習)」については、学年別に見ると1年生の肯定的評価が28%と特に低くなっている。2年生では69%、3年生で46%であり、取り組んできた学年とこれから取り組む学年との差が出ており、全体的な評価が下がっている。今年度は「ふるさと教育」に関するいくつかのゼミが開講され、地域と連携する中で様々な活動を通して評価を得ている。このような活動により2年生での評価が高く、有意義さを感じている。これらの取組が進路に直結してくることを認識させていきたい。</p> <p>「進路行事」については、生徒68%、保護者72%が肯定的な評価であり、進路を考える役に立っている状況が見られ、今後の継続できるようさらなる充実を図りたい。</p>
<p>健康管理・安全指導</p>	<p>地震や台風などの対策マニュアルの周知について、肯定的回答は生徒62%(前年度比-6%)、保護者76%(前年度比-8%)であった。生徒、保護者ともに前年度よりマイナス、肯定的意見は年々減少の傾向にある。特に生徒については、命を守る訓練や保健指導を活用し周知を図るとともに、災害についての危機感や関心自体を高めていくことが必要である。</p> <p>校内美化・設備について、肯定的回答は生徒59%(前年比+1%)、保護者66%(前年比-3%)であった。一昨年まで50%を下回っていた生徒の校内美化についての肯定的回答が2年連続増加したことは評価できる。ただ、自分たちが毎日生活し、毎日清掃している環境に対し、40%の生徒が「清掃がいきとどいている」と回答できないことは問題でもある。今年度、防災美化委員による、廊下掃除や大掃除の徹底など一定の効果があった取り組みは引き続き行い、全校体制で校内美化への意識が高まるよう啓発等実施していきたい。</p> <p>本校では、掃除の必要箇所が多く、生徒・教員ともに人員の配置が足りていない現状もある。体育館や外など掃除時間以外での活動も啓発していくことも課題である。</p>

<p>学校行事等</p>	<p>「部活動」の項目について、活発に行われていると回答した割合は、生徒84%、保護者81%となっており、肯定的に評価されている。</p> <p>桔梗祭やスポーツ交流大会など「学校行事」が充実していると回答した生徒の割合はここ3年80%以上、保護者の割合も77%と高評価を得ている。ただし来年度は体育館が改修工事のため使用できず、いかに充実感のある行事を実施できるかが課題である。</p> <p>また、生徒のみに対する質問であるが、「生徒会活動」が活発に行われていると回答した割合は3年間で12%増加したが、66%という数字は高い評価とは言えない。生徒会執行部をはじめ各種委員会の行事以外の活動が、一般の生徒に浸透していないためではないかと思われる。</p> <p>「学習と部活動の両立」がしやすい環境づくりについて、生徒の否定的な回答が41%ある一方、保護者の肯定的な回答は69%ある。部活動についてはガイドラインにのっとり、休息日も設け、下校時間も守るように指導している。その上で生徒、保護者とも活発に行われていると回答しているので、生徒が「学習」に対して何らかの問題を抱えているのではないかと思われる。</p>
<p>学校独自項目</p>	<p>過去3年間の中で今年度の評価は全体的に肯定的評価が高く増加傾向にあるなど好結果が認められるが、この領域では課題が多く目立つ結果となった。家庭学習、補習授業、学びあい、アクティブラーニングなどの学習指導に課題が依然見られる。特にこれらはこれまでに繰り返し指摘してきた「個に対応した教育」とも大きく関係がある。即ち、これらは従来型の一斉授業の改善を図る上で注目されている分野であるからだ。「個に対応した教育」とは決して教師主導の指導ではない。寧ろ、生徒の主体性をいかに引き出すか、活性化するかを問う教育と考える。このためには予習の質を高めたり、アウトプットを重視したりするなどの工夫や生徒の「メタ認知」を養うといった教育のパラダイム転換が不可欠と言われている。そしてそのためには、「学びの地図」としてのカリキュラムや生徒一人一人の「学びのインフォームドコンセント」が必要である。そうした意味で「カリキュラム・マネジメント」を今後も推進していきたい。</p>